

新たな酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針のポイント

状況の変化

- 我が国の食料・農業・農村を取り巻く情勢の変化に対応するため、食料・農業・農村基本法を改正
- 生乳や牛肉の需給緩和による脱脂粉乳の在庫の積み上がりや枝肉・子牛価格の低下
- 資材やエネルギー価格の高騰等による、飼料費を始めとした生産コストの上昇・高止まり
- 環境や持続性に配慮した畜産物生産の必要性の高まり

構成（「基本的な指針」に記載する施策の方向性）

酪農及び肉用牛の需給を めぐる情勢の変化と対応方向

1 生乳の需給事情の変化と対応方向

- ・ソフト系等の国産ナチュラルチーズの競争力強化
- ・牛乳や脱脂粉乳についての商品開発と需要拡大対策の推進
- ・牛乳や乳製品の輸出促進
- ・生乳の年間安定取引のための規律強化、脱脂粉乳・バター需要の跛行性など全国的に生産者・事業者が取り組むべき課題への対応
- ・国家貿易の適切な運用

2 牛肉の需給事情の変化と対応方向

- ・需要に応じた牛肉の供給
- ・和牛特有の脂肪交雑の強みは残しつつ、おいしさに関する要素にも着目した改良等の推進
- ・適度な脂肪交雑の牛肉生産のための和牛の早期出荷の本格化及び流通関係者等への理解醸成
- ・酪農経営由来の値ごろ感のある国産牛肉の需要拡大
- ・輸出拡大等新規需要の開拓

3 飼料の需給事情の変化と対応方向

- ・国産飼料基盤に立脚した安定的な畜産経営への転換を促進
- ・粗飼料を中心とした国産飼料の生産・利用の拡大
- ・配合飼料原料について、民間備蓄への継続的支援と多様な調達先の確保に向けた検討

持続可能な酪農及び肉用牛生産に向けた取組

1 酪農経営

(1) 生産基盤

- ・飼養戸数減少の緩和のためには経営安定が重要
- ・今後の生乳生産量は、いつ、どの程度1頭当たり乳量が回復するかが大きく左右
- ・後継牛の種付け率等を生産者自ら判断できるよう、見通しに必要な客観的データの情報発信を強化

(2) 経営安定

- ・経営資源に見合った生産規模の選択
- ・長命連産性を重視した強健な乳用牛への牛群構成の転換
- ・加工原料乳生産者経営安定対策の経営安定機能強化

2 肉用牛経営

(1) 生産基盤

- ・高齢の繁殖雌牛から若い繁殖雌牛への更新による牛群能力の向上
- ・和牛の遺伝的多様性への配慮及び遺伝資源の適切な管理・保護

(2) 経営安定

- ・繁殖経営における分娩間隔の短縮等に向けたスマート技術の活用や放牧利用、経営資源に見合った規模拡大等による生産コスト低減等の推進
- ・肥育経営における青刈りとうもろこし等の利用拡大の推進
- ・肥育期間の短縮等による早期出荷の推進

3 国産飼料の生産・利用

- ・畜産農家からの働きかけによる耕種農家との連携
- ・「地域計画」の中に飼料生産を位置付け
- ・栄養価が高く地域の実情に適した飼料作物の生産
- ・飼料生産組織の運営強化
- ・放牧の更なる推進

4 関連事項

(1) 担い手の確保、経営能力の向上

- ・就農支援、省力化推進、外部支援組織強化の総合的支援
- ・ICTや民間事業者を活用したデータに基づく指導の推奨

(2) 労働力不足への対応

- ・外部支援組織の運営安定化や人材の確保・育成・定着
- ・省力化機器の導入推進
- ・外国人材活用に向けたサポート体制等の充実

(3) 家畜衛生対策の充実・強化

- ・水際対策及び国内防疫の徹底、獣医療提供体制の整備

(4) 安全確保の取組の推進

- ・持続可能性に配慮した生産工程管理の推進
- ・製造・加工段階での衛生管理の高度化
- ・薬剤耐性対策の徹底
- ・飼料・飼料添加物、動物用医薬品に係る安全確保

(5) アニマルウェルフェア(AW)の推進

- ・生産現場における指針の普及・定着と消費者の理解醸成

(6) 環境と調和のとれた畜産経営

- ・資源循環型畜産の推進
- ・温室効果ガス（GHG）対策の推進

(7) 自然災害に強い畜産経営の確立

(8) 暑熱対策の推進

(9) 経営安定対策及び配合飼料価格安定制度の着実な運用

(10) 消費者の理解醸成

- ・畜産業の意義や生産者の努力に対する国民の理解醸成

目指す方向性

- ◎ 生乳や牛肉の需要拡大への取組と、需要に応じた生産の推進による需給ギャップの解消
- ◎ 従来の生産手法の見直しを含む、生産コストの低減・生産性の向上
- ◎ 国産飼料の生産・利用の拡大を通じた輸入飼料依存度の低減
- ◎ 環境負荷低減などの取組の推進